

# ビジネス日本語教育に求められる語彙について

黄海洪（京都大学大学院）

【キーワード】 コーパス, 語彙リスト, ビジネス文章, JOP, JBP, Sketch Engine

## 1. はじめに

日本語教育では、「特定目的の英語 (English for Specific Purposes: ESP)」の影響を受け、「特定目的の日本語 (Japanese for Specific Purposes: JSP)」に対する関心が高まり、研究の一分野として関心を集めている。JSPの中で職業に必要な日本語を教育するものを「職業目的の日本語 (Japanese for Occupational Purposes: JOP)」と呼ぶ。「ビジネス日本語 (Japanese for Business Purposes: JBP)」はJOPの下位分野にあたる。

日系企業のビジネス現場において、案内文、詫び状、礼状といったビジネス文書の書き方を身につけることは、ビジネスパーソンの基本技能として重視される。

本研究はビジネス日本語教育に求められる語彙について分析を行い、ビジネス現場でよく使われる社外文書に焦点を当て、コーパスを利用した真正性の高い語彙リストの作成法を示す。これによって、ビジネス日本語教師の効果的な語彙指導及び日本語学習者のビジネス文書の読解力の向上に資することを目的とする。

## 2. 先行研究

日本語は語彙の多い言語と言われ、実際広辞苑(第7版)には約25万語が掲載されている。日本語テキストの98%を理解するために必要な語彙数は、lemmaに換算して約20,000~24,000語と言われている(Matsushita, 2012: p.155)。また、林(1971)は日本人の成人の理解語彙量は約48,000語程度であると推察している。一方で、留学生はN1レベル認定で約1万語を習得することが目安となっている。ビジネス日本語を教える日本語教師が効果的な学習支援を行うためには、学習者のレベルに応じた当該分野の学習優先度が高い語彙を抽出することが求められている。

コーパス言語学の発展により、出現頻度と統計指標に基づく客観的な語彙リストが開発されている。日本語教育の分野では、現代日本語書き言葉均衡コーパス (The Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese: BCCWJ) が開発されて以来、コーパスに基づく語彙リストの作成が盛んとなり、様々なコーパス準拠の語彙リストが開発されている(ポスター図表3)。

## 3. 研究方法

ビジネスの現場で実際にビジネス文書を書くにあたり、インターネット上のモデル文を参照することは少なくない。「ビジネス文書の書き方」(<https://b-writing.com/index.html>)は社外文書、社内文書、社交文書等ビジネスに使用できる多くの文書を含むウェブサイトである。社外文書は、企業間のやりとりで交わす文書としてとても重要な役割を果す。本研究では「ビ

ビジネス文書の書き方」のサイト上にある社外文書をダウンロードし、一つのテキストとしてまとめた。

Sketch Engine (Baroni et al., 2006) の自動コーパス構築機能を利用し、「ビジネス文書コーパス」を作成したうえで、Sketch Engine に搭載されている JaTenTen を参照コーパスとして、Keywords という付随のコーパス検索機能を用いて短単位・長単位特徴語をそれぞれ抽出した。Sketch Engine では、2つのコーパスを比較し、片方のコーパスに特徴的に出現する語を特定することができる。特徴語を抽出するには「Simple maths」と名付けられた以下の数式を利用している。ここで、 $fpm_{focus}$  は対象コーパスにおける 100 万語あたりの出現頻度を表し、 $fpm_{ref}$  は参照コーパスにおける 100 万語あたりの出現頻度を表す。

$$\frac{fpm_{focus} + N}{fpm_{ref} + N}$$

最後に、特徴語からビジネス文書に使用される漢字を抽出し、それらのレベル判定を行った。

#### 4. 研究結果

「ビジネス文書の書き方」に収録される社外文書の token は 120,655 語である。lemma 換算では 10,283 語である。長単位の特徴語では、上位に「勝手なお願い」が 14 回、「新規お取引」、「多大なご迷惑」、「深く感謝」がいずれも 8 回出現した。また、短単位で抽出した場合、「敬具」、「貴社」、「平素」などの語が特徴語として上位に現れた。

社外向けビジネス文書に使用される漢字として 1,400 字を抽出した(ポスター図 1)。レベル別では、級外は 89 字、N1 は 476 字、N2・N3 は 607 語、N4 は 150 語、N5 は 78 語であった。

#### 5. 結論

本研究では、コーパスを活用した語彙リスト作成の方法について、ビジネス文書語彙リストを例に取り上げて具体的に示した。コーパスを利用した真正性の高い JBP 語彙リストを作成することで、就職活動の段階からビジネスにおいて頻繁に出現する難解な語彙を提示することができる。これにより、日本語学習者と日本語母語話者との間の語彙ギャップを埋め、ビジネス日本語学習者のビジネス日本語能力を短時間で伸ばす一助となることができる。今回はネット上のデータを使用した、「ビジネス文書実務検定試験」等の本文を電子化し、自作コーパスを作成することによって、さらに質の高い語彙リストを作成することができるものと思われる。

#### 参考文献

- (1) 林四郎 (1971) 「語彙調査と基本語彙」『国立国語研究所報告 39 電子計算機による国語研究 III』 国立国語研究所 p. 8
- (2) Baroni, M., Kilgarriff, A., Pomikalek, J. and Rychly, P. (2006) WebBootCat: instant domain-specific corpora to support human translators Proceedings of EAMT, pp.247-252.
- (3) Matsushita, T. (2012) In what order should learners learn Japanese vocabulary? A corpus-based approach (PhD thesis), Victoria University of Wellington.